

澤田兼吉：—日本産 Colus 属の種類に就て (鳥取農學會報第 4 卷第 3 號
第166-173 頁昭和 8 年 6 月)

Colus 属又は後に LLOYD 氏が新設した Pseudocolus 属の菌類は極めて稀に発見せられるものであるが日本産の種類としては安田篤氏の發表せる Pseudocolus Rothae (FISCH.) 及び川村清一氏發表の Pseudocolus javanicus PENZ. の 2 種のみが知られてゐた。著者は臺灣産 Colus 属菌類 2 種につき研究した結果日本産のものは Colus Schellenbergiae SUMSTINE と Colus pentagonus (BAILEY) SAWADA との 2 種のみなることを知るに至つた。

川村氏發表の Pseudocolus javanicus は瓜哇産の原種とは異り安田氏發表の Pseudocolus Rothae に近似し、然るに後者は FISCHER 氏の Colus Rothae (FISCH.) SACC. et TRAV. とは異り却つて北米産の Colus Schellenbergiae SUMSTINE と同一種であり、著者採集の臺灣産のものはまさに安田、川村兩氏の種類に一致する。又著者採集の臺灣産の他の一品は濠洲産の Mutinus pentagonus BAILEY と同一種であり、本菌は Mutinus 属よりは Colus 属に入れるべきもので、さきに著者の發表せる臺灣産の一新種 Mutinus quadrigonus SAWADA は本種の一畸形にすぎない、と論じて大體次の如く日本産 Colus 属菌類を整理せられた。

Colus Schellenbergiae SUMSTINE

Pseudocolus Rothae YASUDA in Tokyo Bot. Mag. XXX, p. 298 (1916).

Pseudocolus javanicus (non PENZ.) KAWAMURA, Nippon Kinrui Dusetu, no. 134, Fig. no. 2 (1929).

サンコタケ (三鈿茸)、イカリタケ (錨茸)

日本 (東京、仙臺、臺北)、北米合衆國

Colus pentagonus (BAILEY) SAWADA, comb. nov.

Mutinus pentagonus BAILEY

Mutinus quadrigonus SAWADA in Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, XXI, p. 331 (1931).

ゴリヤウタケ (五稜茸) (新稱)

日本 (臺北)、濠洲

(田川 基二)

館脇操：—中部千島の植物地理 (北海道帝國大學農學部紀要第 29 卷第 5 號) M. TATEWAKI: The Phytogeography of the Middle Kuriles, in Journ. Facult. Agric. Hokkaido Imp. Univers. Vol. XXIX, pt. 5. (1932) pp. 191-363, t. I-VII.

まづ中部千島の植物を南から得撫島、新知島、計吐夷島、羅處和島、松輪島の順

に各處産の種類を挙げ、それ等の近隣地方に於ける分布を表示、説明した後、中部千島の植物地理に論及し、中部千島は分布の廣い植物種が多く、その中でも周極分子が最も著しくて特産とすべき種が貧弱である、植物區系の上から北海道本島とは Arctic-Alpine のものが多い事が異なり、反つて北千島を含む勘察加地方と同じく ENGLER の Subarctic Region に入れらるべきものと断定されたが同時に *Sasa*, *Taxus*, *Acer* 等の南方の系統のものも分布して居る事は注意すべきであると云はれ、そして ENGLER の Temperate East Asiatic Region と Subarctic Region とは Floral Components 及び Physiognomy の上から擇捉島と得撫島との間。即ち南千島と中部千島間とのを以て切らるべきものと説明されて居る、著者は更らに千島全體を南、中、北の三部分に分ちその各を更らに植物相の上から

- | | | |
|---------|----------------|-------------|
| I 南千島 | 1) 國後島 | 2) 色丹島—擇捉島 |
| II 中部千島 | 1) 得撫島 | 2) 新知島—松輪島 |
| III 北千島 | 1) 捨子古丹島—溫瀾古丹島 | 2) 幌筵島—阿頼度島 |

の六つの小區分に分たれて居る、卷末には索引に次いで北日本の地圖と中部千島各島の地圖が添えてあり、北日本の植物に關する絶好の著である。

尙次の植物は此の報文で發表された新しい種類、組合せ、新産地又は分布上興味あるものである、(括弧内の數字は最初に掲載された頁數を示す)。

Saxifraga Ohwii TATEW. (199), *Oxytropis Itoana* TATEW. (202), *Saussurea kurilensis* TATEW. (214) var. *arachnoidea* TATEW. (238), *Draba hyperborea* DESV. (250), *Carex rigida* GOOD. (262), *Ranunculus acris* LINN. var. *subcorymbosus* (KOMAR.) TATEW. (268), *Primula sibirica* JACQ. var. *arctica* PAX (284), *Astragalus alpinus* LINN. (298), *Stellaria lancifolia* KOMAR. (248), *Sorbus kamtschatcensis* KOMAR. (200), *Akenophora kurilensis* NAKAI (212), *Luzula parviflora* DESV. (219), *Luzula arcuata* Wg. var. *unalaschkensis* BUCH. (292). (J. O.)

初島住彦：—九州帝國大學農學部演習林報告第三號臺灣演習林植物調査 (豫報) S. HATUSIMA: Preliminary Reports on the Flowering Plants and Ferns collected in the Taiwan Experimental Forest of Kyushu Imperial University (1933) pp. 1-257.

林學も植物を基礎とする學問である以上その種類の調査の必要な事は當然であるが最近各帝大の演習林で此種に類する調査が盛に行はれて居るのは吾々に取つても非常に有益な事である、此の報文は特に樹木のみならず草木や羊齒植物までも網羅してあるので吾人の裨益する處も又大である、その目次を列舉して見ると